

# MEIJI MURA

明治村だより  
2023 Winter  
112



## CONTENTS

- 明治村の建築に見る日本近代青春群像物語〈十二〉  
帝国ホテルライト館は  
日米文化の出会いに架かる未発の夢(その二) … 02  
**A La Meiji-mura**  
聖なるトコロ … 06  
MEIJIMURA TOPICS … 05 冬の催しもの … 07

## 明治村みらい基金



私たちの未来を豊かにする「明治」の価値  
一緒に残し、伝えていきませんか

歴史的建造物を中心とした「明治時代からの贈り物」を未来へ残し続けるためには、  
多くの資金が必要です。明治村事業へのご支援をお願いします。



### ご支援の内容

- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための展示建造物の維持・保存修理
- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための歴史資料の維持・保存修理
- ・未来の指針となる明治時代の価値を伝えるための展示(常設展及び企画展)
- ・明治時代製造の蒸気機関車及び京都市電の動態展示
- ・博物館明治村の事業全般

1回3,000円からご支援いただけます(マンスリーサポーターは月額1,000円から)  
公益財団法人明治村へのご寄付は一定の「税制控除対象」となります。

### ご寄付の方法

明治村みらい基金へのご寄付は、以下の方法で行うことができます。

- ・クレジットカード
- ・金融機関からの振込
- ・ゆうちょ銀行からの払込

詳しくは博物館明治村公式サイト内  
「明治村みらい基金」をご覧ください。



## 協賛会員

(令和5年12月1日現在)

### ゴールド会員

大成建設株式会社

名鉄都市開発株式会社

矢作建設工業株式会社

### 一般会員

アイカ工業株式会社

株式会社安藤・間

因幡電機産業株式会社

NTTコミュニケーションズ株式会社

岡谷鋼機株式会社

キリンビバレッジ株式会社

五洋建設株式会社

佐藤工業株式会社

清水建設株式会社

株式会社扇港電機

株式会社谷澤総合鑑定所

鉄建建設株式会社

東洋電機製造株式会社

能美防災株式会社

株式会社フジタ

前田建設工業株式会社

三菱商事株式会社

名鉄エアリーパートナーズ株式会社

アサヒ飲料株式会社

株式会社磯部組

株式会社魚津社寺工務店

NTT都市開発株式会社

株式会社オノコム

株式会社熊谷組

合資会社齊木研磨工業所

サントリーコーポレートビジネス株式会社

株式会社新高土木

ダイキン工業株式会社

株式会社丹青社

株式会社東急設計コンサルタント

戸田建設株式会社

株式会社長谷工コーポレーション

株式会社不動テトラ

三井住友海上火災保険株式会社

三菱電機株式会社

株式会社森本組

アサヒビール株式会社

株式会社伊藤園

株式会社エイムクリエイツ

株式会社NTTファシリティーズ

鹿島建設株式会社

株式会社鴻池組

株式会社ザイマックス

株式会社シーイーテック

株式会社スペース

大興建設株式会社

中京テレビ放送株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

西日本電信電話株式会社

株式会社日立製作所

ホーチキ株式会社

三井不動産株式会社

名高土木株式会社

株式会社ヤシマキザイ

厚見建設工業株式会社

伊藤忠商事株式会社

NTP名古屋トヨペット株式会社

株式会社大林組

株式会社関電工

コクヨマークティング株式会社

サッポロビール株式会社

柴山コンサルタント株式会社

スターツ東海株式会社

株式会社竹中工務店

中部電力ミライズ株式会社

株式会社東芝

西松建設株式会社

株式会社ファミリーマート

ボッカサッポロード&ビバレッジ株式会社

三井不動産ビルマネジメント株式会社

名鉄E.I.エンジニア株式会社

若松物産株式会社



表紙について

「東京名所図 本町通夜雪」  
小林清親、明治11(1878)年頃

「明治村だより」第112号(令和5年冬号) 令和5年12月15日発行

発 行 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市字内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製 作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第113号発行のお知らせ

発行時期 令和6年3月下旬予定

「明治村だより」第113号は、Webでもご覧いただけるようになります。詳しくは博物館明治村公式サイトをご覧ください。



写真3 正面左隅部分



## 写真2 車寄せ部分



写真4 ロビー内観(正面)

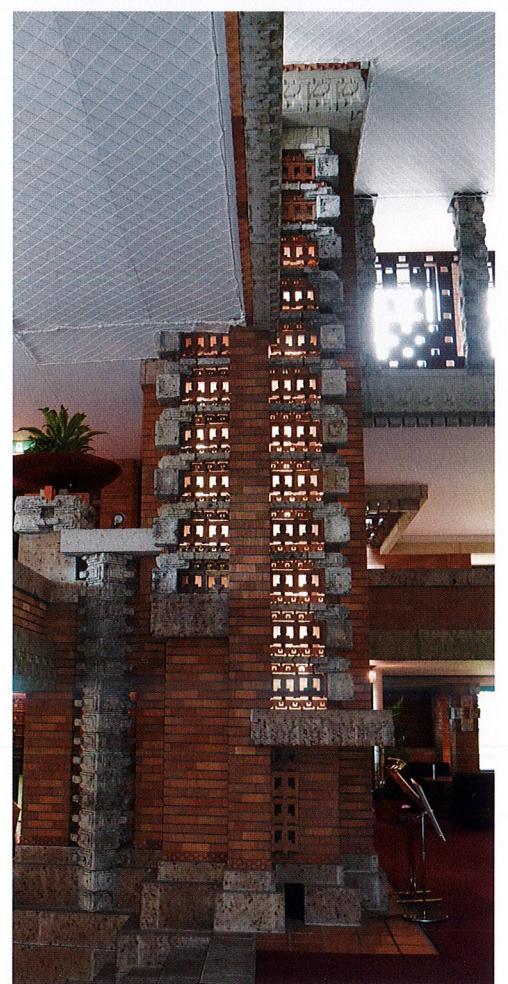


写真5 光の籠柱

を生かすようにラフに彫られている。多くのオリジナルな大谷石、レンガやテラコッタは劣化損傷の度合が激しく、再利用が不可能で、新しく作り直さざるを得なかつたものもあるが、この玄関前面の内側には、オリジナルな大谷石などが再利用されている。新しいものと比較して味わつていただきたい。

さあ、内部へ入つていこう。車寄せの軒は低く（写真2）、奥の玄関ドアから、一段高く、丸く引き込まれた玄関土間、その両側は低く、小さなレセプションカウンターになつており、その奥にはクローケルームなど控えの間が、文字通り控えるようになっている。

中央玄関棟両コーナー部の外観（写真3）を見ると、二層目のみ、角柱、控え壁、控え窓の水平、垂直枠を多重に組み合わせた隅部を演出している。これは全体として、腰、軒、基礎部の水平帶やスクランチタイル（※）の水平目地の強調と、堅窓と柔らかなスクランチの豎線による、安定した水平と垂直の形態による立面構成であるが、特にコーナー部では、内部だけではなく外部も視線と空間の重層があることをそれは

示している。またここで建物の基礎部が三段元の土台基礎で建ち上がっているのに対して、庭園に隣接する側面は地上面より低く、前面には腰壁が建ち上がり、笠石で押さえている。また、大きく張り出した庇には、折り畳んだ銅板で、巧みに軽量化し、立体的な影を建物に落としている。

再び玄関土間から、いよいよロビーである。二層の壁柱に支えられた正面二階、回廊中央にフランク・ロイド・ライト（一八六七—一九五九）の大きな写真が掲げられ、まさにライトの圧倒的な巨大空間である（写真4）。三層までの太い通し柱（写真5）は、「光の籠柱」と呼ぶべき、明るい創建時には送風管も設置されていたといふ、大谷石とテラコッタ、スクラッチタイル、そして見えないところに鉄筋コンクリートを用い、通気と構造機能と装飾を兼ねた多重柱となつてている。一層目は階段に多様空間の繋がりが暗示され、低い二層目の回廊からはあまり光がもれないが、三層目は正面両側に、回廊



明治村の建築に見る日本近代青春群像物語 〈十二〉

商国志元山中央玄門

# 帝国ホテルライト館は 日米文化の出会いに架かる 未発の夢 (その二) 長中川 武

(その一)

残された  
中央玄関・ロビー回りから、  
ありし日の帝国ホテルの  
全体を遠望する。

建築には「部屋と全体」という見方があり、そこから建築を考えてみる。建築の部分といふのは、全体を構成する要素としての一つの部材という意味と、一つの部屋のように、限られた構成部分という面がある。その他に、部分と全体の関係という視点があり、全体の構成から部分の寸法秩序を決定する方法と、対に部分の寸法秩序を全体に敷衍する方法があり、古代から近代へ進むに従って、部分から全体を決定する方法が歴史的に発展する。即ち寸法秩序だけでなく、部分に見られる性格が全体にも共通するようになる。この性格は



写真1 中央玄関前に並ぶ幾何学的な彫刻

実は建築の特質であって、車などの機械には見られない。たとえば、車のエンジンやタイヤの一つがないとそれは車ではないが、建築の窓や柱が一本無くとも、問題がないわけではない。建築の本質は変わらない、と言えるのである。これは、帝国ホテルライト館の一部だけしか明治村に移築されていないことの言訳ではない。

確かに大食堂、プロムナード、孔雀の間、演芸場、客室そしてそれらの部屋に行くために秘密めいた階段を上り、下りして、実際に体験してみたいと思わないわけではない。けれども、正面の池に沿つて玄関に向つて行くと、戦士像、宇宙の壺とサボテンの誕生を象徴するようなオブジェが迎え、玄関の前面の腰壁を、れんじこ連続する壁ではなく、巨大な連子子のようないくつもくつと重ねられた壁である。これが、明治村の建築の特質である。

# MEIJIMURA TOPICS

▶2023.3.11

## 「石井琢磨×阿川佐和子×中川武洋琴(ピアノ)の音色は心をHAPPYに!」

3月18日(土)、「聖ザビエル天主堂」で、ピアニスト石井琢磨氏をゲストに招き、阿川佐和子村長・中川武館長との鼎談およびピアノ演奏を行いました。演奏には、2月に修理・チューニングの終わった館蔵のウイーン「Pallik&Stiasny」製ピアノを使用しました。

## 「明治村・四季折々の飾り」を実施

4月から5月まで、「宇治山田郵便局舎」で端午の節供飾りを、6月末から7月には「三重県尋常師範学校・藏持小学校」前で七夕の笹飾りを、9月から11月初めまでは「西園寺公望別邸『坐漁荘』」及び村内各所で、重陽の節供飾りを開催しました。それぞれ四季折々のおもてなしで、お客様をお迎えしました。

## 「名電1号形」の展示が終了。 札幌市交通局へ返却

明治村開村50周年(2015年3月18日)の記念事業「名電1号形里帰りプロジェクト」として、2014年から約9年間に渡って公開してきた「名電1号形」の展示を9月3日(日)に終了し、車両の所有者である札幌市交通局へ返却しました。

## 「燈台記念日」 品川燈台特別公開

燈台記念日にちなみ、11月3日(金・祝)から5日(日)まで、第四管区海上保安本部交通部とともに、品川燈台特別公開などのイベントを実施しました。また、「北里研究所本館・医学館」では、同海洋情報部による旧版海図の展示等が行われました。

## 第55回明治村茶会

4月14日(金)・15日(土)の2日間、「西園寺公望別邸『坐漁荘』」「茶室『亦樂庵』」(濃茶、席主・藤田美術館)「學習院長官舎」(薄茶、席主・木田公洋氏)および「東松家住宅」(薄茶、席主・下村宗隆氏)で、第55回明治村茶会を開催しました。

## 3年8か月ぶりに「蒸気機関車12号」が営業運行を再開。 「蒸気機関車9号」はオーバーホールのため館外へ搬出

2019年9月から2020年7月までオーバーホール(大規模修復)を行ったのち、さらに修理を重ねていた国内最古の動態保存蒸気機関車「蒸気機関車12号」が、4月20日(木)より営業運行を再開しました。また、明治45年製造の「蒸気機関車9号」がオーバーホールを行うにあたり、最終営業運行日となる7月2日(日)に特別企画として「蒸気機関車12号」と連結した重連運転を約7年ぶりに実施。7月25日(火)には、「蒸気機関車9号」を館外へ搬出しました。

## 帝国ホテル・ライト館にちなんだ ワークショップ

竣工100年を迎えた帝国ホテル・ライト館の建築意匠をモチーフに、2種類のワークショップを開催しました。10月7日(土)から9日(月・祝)、11月25日(土)には「自分だけのスレーラー瓦をつくろう!」を、10月21日(土)、22日(日)には「ステンシルアート DE 気分は名建築家?」を、ともに「名鉄岩倉変電所」で実施しました。

## トークセッション 「帝国ホテル・ライト館 - 未来へのメッセージー」

11月26日(日)、マガジンハウス『Casa BRUTUS』の副編集長として「フランク・ロイド・ライト特集」などを手掛けた白井良邦氏をゲストに、ライト館の魅力について阿川村長、中川館長とともに語つていただきました。

が四角のベランダ状に張り出し、列柱とスクリーン越しに明るい外部からの光が差し込む(写真6)。

スクランチスタイルの太い水平目地にはかつて金泥が塗られ、三層の腰壁の白い水平な大谷石のブロックの連なりとともに、水平感が強調されていたともいう。二本の壁柱と四本の籠柱は強くはないが、多重な意味が混融した複雑な力で、かつては雲母のように煌めいていたという白い天井を支えている。実際はそれほど広くも、高いロビー空間でもない。しかし低く、暗く抑えられた導入部から、数段上がつてここに入ると劇的な力を感じる。昂揚した気持ちがやがて周囲のアチコチから入つてくる光に誘われるよう、目的の空間に流れていく。これがライトの空間原理である。大食堂も、プロムナードも孔雀の間も、写真や図面である程度想像することは可能であろう。しかしこれらの空間を味解するためには、現存する中央玄関とロビー回りの空間原理を理解し、体感し、そこから今はしない全体に想いを馳せることが必要であろう。それが帝国ホテルライト館における部分と全体の関係である。

フランク・ロイド・ライトが生涯にかかわったプロジェクトと完遂した仕事の量、範囲、質を考えると、確かに天才的建築家と呼ぶにふさわしい。しかし彼の人生的なものも含めてその背景、曲折、事情を勘察していくと、天才的に頑張った人というべきかもしれない。

一九一四年のタリアセン惨殺放火事件などにより、私的な苦難に加えて、ほぼ仕事がなかつた状況の中での帝国ホテル二代目新館プロジェクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

ロジエクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

ロジエクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

ロジエクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

ロジエクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

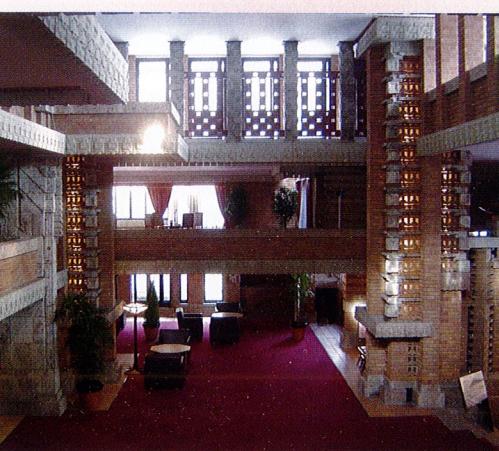


写真6 ロビー2階、西側からの眺め

## 二 日本から得たものと ライトが

### 日本にもたらしたもの

フランク・ロイド・ライトが生涯にかかわったプロジェクトと完遂した仕事の量、範囲、質を考えると、確かに天才的建築家と呼ぶにふさわしい。しかし彼の人生的なものも含めてその背景、曲折、事情を勘察していくと、天才的に

頑張った人というべきかもしれない。

一九一四年のタリアセン惨殺放火事件などにより、私的な苦難に加えて、ほぼ仕事がなかつた状況の中での帝国ホテル二代目新館プロジェクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。

一九一四年のタリアセン惨殺放火事件などにより、私的な苦難に加えて、ほぼ仕事がなかつた状況の中での帝国ホテル二代目新館プロジェクトは、彼にとって起死回生のチャンスであり、契約前から意を傾注していた。帝国日本たたうが、それ以上に彼は必死であった。



写真7 大谷石柱頭飾り



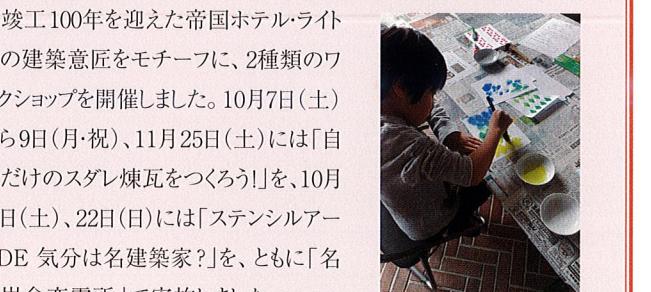
写真8 大谷石持ち送り附木

この中で、公私ともに苦難に陥った時、彼はヨーロッパに向い、イタリア・フィエーゾレで一年間、フレンツェの歴史と都市を眺めながら、自らを振り返り、作品集をドイツから出版する。ここからライトは帝国ホテルに立ち向かったのである。既にラーキン・ビルにおいて、ライトは伝統建築様式の装飾を排除す

ることなく、しかしながら空間の流れとは連携することなく取り入れていた。またロビー邸では、建築の構成部材や窓などの部位を機能性

離れて、空間的な連續性の強調のために使は試みを行っていた。アメリカや日本だけでなく世界の建築の歴史において、様式建築の形態や装飾が抱つてきた建築の価値や意味を、近代主義的な抽象としてではなく、新しい建築が包括する方法こそ、ライトが、ミースやコルビュジエに先んじて、シカゴから近代世界に挑戦したことにより、目指した課題だったのだと思われる。帝国ホテルライト館に見られたかのような柱頭部の大谷石持ち送り附木(写真8)の爛熟、そして幾何学的に彫刻したテキスタイル・ブロックの連続である(写真1)。帝国ホテルライト館は、シカゴからのライトの世界近代建築史への、主体と素材と建築空間の内部からの、オーガニックな挑戦だったのである。日本はその戦いに加担するという榮誉を担つたのだと思う。

※ ここでは「すだれレンガ」も含めてスクランチスタイルと表記



# *A La Meiji-mura*



## 写真1 聖ザビエル天主堂内陣

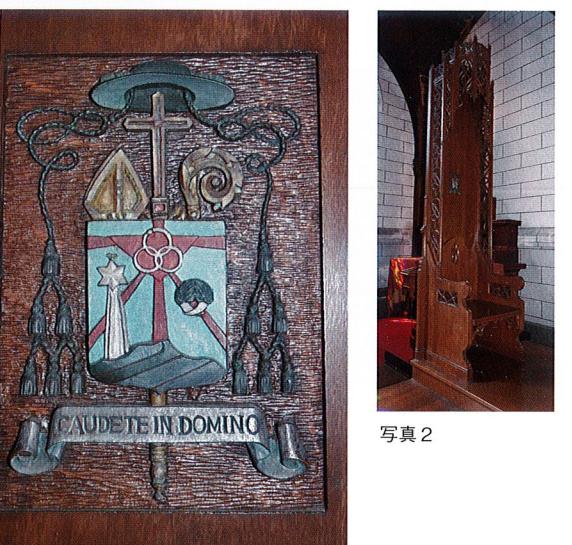
# 聖なるトコロ

聖ザビエル天主堂に入り、ステンドグラスの光に包まれた莊厳な礼拝堂を進んで行くと、祭壇のある内陣にひときわ目を引く大きな椅子があります（写真1）。これは今回ご紹介するカトリック河原町教会第七・九代主任司祭を務めた古屋義之司教（註）の司教座です。

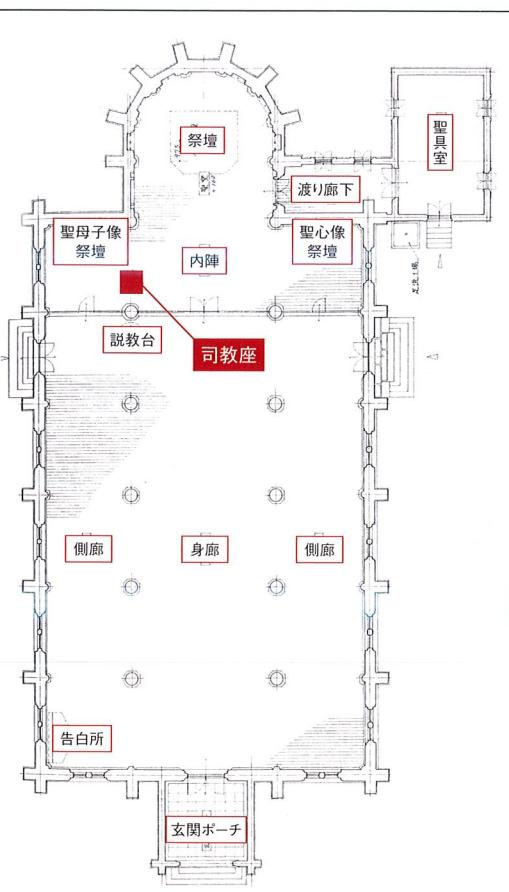
聖  
下ろす比叡山の山陵が広かり、  
その上に赤色で京都の京の字  
が図案化されています。京の字  
の中には三位一体の玄義<sup>(註2)</sup>を象徴  
する三つの輪が重なり、司教と司祭修道  
者と信者とが相協力する姿を表していま  
す。京の字の右側には古屋家の家紋である「  
違い大根」、左側にはマリア様を表す暁  
の星が彫刻されています。これらの上部  
右側に司教杖(バカルス)が、左側に司教冠  
(ミトラ)が配され、十字架を中心的に司教を  
示す緑色の、左右合計12個の結び飾りを配  
したカーディナルハット<sup>(註3)</sup>が取り囲ん  
でいます。そして、銘句「GAUDET E  
IN DOMINO」(主にあって喜びなさ  
い)を意味するリボンが支えています。こ  
れは古屋司教の叙階式の披露祝賀会の際、  
現役の司教たちが祝賀の言葉を、つづり音をもじ

られることもあり、この教会堂も祭壇の前に位置します(図1)。台座を含めた司教座は司教臺座と呼ばれ、司教によって祝祭の祭式中および説教に際して使用され、これにより司教の権威やその権威ある教えを指すこともあります。

台座に置かれた古屋司教の司教座の高さは約3メートル、全体に豪華な葉模様が施され、背もたれの中央には古屋司教の紋章が彫刻されています(写真2、3)。この紋章について紹介します。



2



人々を救いの道に導いた司教座は、今日も聖ザビエル天主堂を訪れた人々を穏やかに見守っています。

られた言葉であります。  
教会堂の建物は京都か  
ましたが、教会の平安と發

人々を救いの道に  
聖ザビエル天主堂  
に見守っています

注1 昭和9(1934)年に京都教区河原町カトリック教会に着任され、昭和13年に主任司祭となり、昭和26年に司教叙階。昭和51年引退。

註2 一、父(父なる神・主権) 二、子(神の子・子なるイエス・キリスト)  
三、靈(聖靈・聖神)の三つが唯一の神であるとする教え

注3 カトリック司教の帽子。結び飾りの色と数によって聖職者の位階を表す。左表で右左会計29個の振幅機械の中には日本宣傳

表し、赤色で左右合計30個の枢機卿のものが最高位。

『河原町カトリック教会 一宣教百年の歩み一』 宣教百年史編纂委員会

『基督教日本の歩み』 基督教日本文権委員会  
1982年

『世界大百科事典 第2版』 平凡社 1998年

『明治村建造物移築工事報告書 第十一集 聖ザビエル天主堂』

博物館明治村 2005年